

震災支援の経験基に 九州初「薬剤師カー」

糸田町の田中さん製作

災害被災地に駆け付け、患者のニーズに応じた薬剤を提供する「薬剤師カー」を、福岡県糸田町の薬剤師田中洋介さん(40)が製作した。東日本大震災のボランティア経験を基に、大型キャンピングカーを改造。薬の保管や調合、宿泊機能を備えた。日本薬剤師会によると、宮城県薬剤師会が昨年、同様の車両を造っ



薬の調合用機器などが備わる「薬剤師カー」の車内

たが、九州では初めてという。16、17日に北九州市である九州山口薬学大会で披露する。

田中さんは、九州山口薬剤師会の災害ボランティアとして、昨年3月に宮城県気仙沼市、同4月には同県南三陸町に1週間ずつ滞在。高血圧などの慢性疾患に悩む人たちの薬の相談に応じ、全国から送られてくる市販薬を避難所に仕分けす

るなどの活動をした。

ただ、在庫不足のため、うつ病の症状を訴える患者に睡眠作用がある鼻炎薬で代用したり、水不足

で子どもや高齢者がのみにやさしい「水剤」を調合できなかつたりするなどの限界も感じたという。

「なんとかしたい」と考えるうち、薬局機能を移動させることに思い至った。震災から1年の今年3月、中古のキャンピ

ングカーを自費で購入。薬棚や調合用の機器を取り付け、薬を袋に小分け

カーナビに倶楽部
カーナビ車検
www.shineinet.com
●クルマは家族●
信栄自動車 軽
TEL.092-771-9048

する分包機も装備した。発電機やバッテリー、貯

水タンクも備え、患者の情報や医師と共有するパソコンを使うことができ、薬剤師3人が寝泊まりしながら5日連続で活動できるという。

今後は、田川薬剤師会の仲間を誘い、車の機能を使いこなすための訓練に2カ月ごとに取り組み予定。田中さんは、いざという時に動けるよう備えたいと話す。(吉田修平)